

令和4年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立ゆいの杜小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和4年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和4年4月19日(火)

3 調査対象

小学校 第4学年, 第5学年 (国語, 算数, 理科, 質問紙)

中学校 第2学年 (国語, 社会, 数学, 理科, 英語, 質問紙)

4 本校の実施状況

第4学年	国語	120人	算数	120人	理科	120人
------	----	------	----	------	----	------

第5学年	国語	102人	算数	102人	理科	102人
------	----	------	----	------	----	------

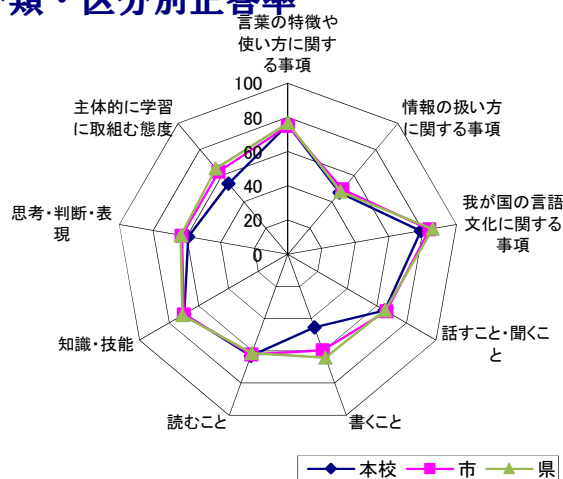
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立ゆいの杜小学校 第4学年【国語】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方に関する事項	75.8	75.1	76.7
	情報の扱い方に関する事項	47.1	49.6	47.8
	我が国の言語文化に関する事項	78.9	84.0	85.9
	話すこと・聞くこと	65.3	66.5	65.5
	書くこと	45.4	59.6	64.2
観点	読むこと	63.1	62.2	61.5
	知識・技能	69.9	70.2	71.1
	思考・判断・表現	59.1	62.9	63.6
	主体的に学習に取り組む態度	53.9	63.0	65.5



★指導の工夫と改善

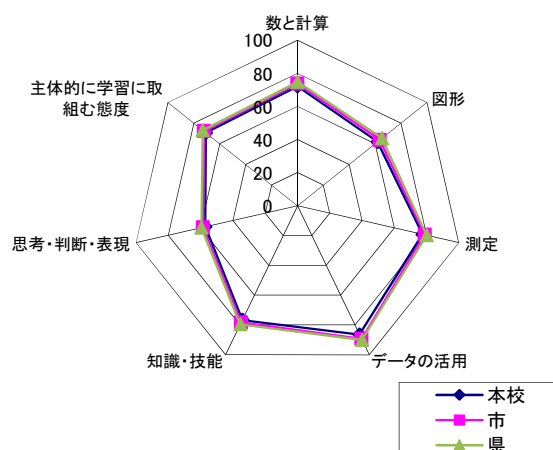
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	○主語と述語の関係を問う問題では、県の平均を7.4ポイント上回っている。 ○漢字を読む問題の正答率は県の平均とほぼ同等で、校内平均正答率は全て93%を越えており、高い。 ●漢字を書く問題では、県の平均を下回った問題がある。	・主語が何かを意識して文を読んだり書いたりする活動を取り入れ、文の組み立てについてさらに理解を深めていく。 ・漢字50問テストやミニテストを定期的実施し、繰り返し練習することで知識の定着を図る。
情報の扱い方に関する事項	○情報と情報との関係について理解し、中心となる語や文を見付けて要約する問題では、県の平均を2.4ポイント上回っている。 ●国語辞典の使い方について問う問題では、県の平均を3.5ポイント下回っている。	・字数制限の中で文章を書いたり、自分の考えを簡潔にまとめたりする活動を適宜取り入れ、文章の構成についてさらに理解を深めていく。 ・授業の中で辞書引き学習を積極的に取り入れることで、国語辞典の使い方を定着させる。
我が国の言語文化に関する事項	●漢字のへんやつくりについて問う問題では、県の平均を7.0ポイント下回っている。	・漢字の練習をする際に、言葉の意味を捉えたり、読み替えるの感覚を学習させたりすることで、知識の定着を図る。
話すこと・聞くこと	○話し手の工夫を捉える問題や互いの意見の共通点や相違点に着目して考えをまとめる問題では、県の平均をやや上回っている。 ●話すこと・聞くことについては、市や県の平均と同等かやや下回っている。	・相手に伝わるような話し方について、実際に経験してみるなど、学習の中で経験を積ませていく。 ・相手の伝えたい内容や、話の中心を捉えて聞く練習を適宜行い、聞く力を高めていく。
書くこと	●書くことについては、市や県の平均をかなり下回っている。 ●自分の考えを支える理由や事例を明確にして文章を書く問題では、県の平均を大きく下回っている。	・自分の考えを的確に述べられるよう、発想力や語彙力を高める学習に取り組ませる。 ・様々な文種に触れさせ、文章の構成の特徴を踏まえて書く機会を多くする。
読むこと	○読むことについては、市や県の平均をやや上回っている。 ○叙述をもとに文章の内容を捉える問題では、校内の平均正答率は93.6%と高く、県の平均を上回っている。 ●場面の様子について捉える問題では、県の平均を上回っているが、校内の平均正答率は28.4%と低い。	・物語文では、段落ごとの内容や段落と段落のつながりについての学習を重点的に行うなど、内容理解を図る。 ・読書活動などを継続的にを行い、様々なジャンルの文章に触れる機会を設ける。

宇都宮市立ゆいの杜小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	72.2	73.8	74.8
	図形	62.0	63.7	65.3
	測定	77.6	78.9	80.1
	データの活用	86.4	89.3	90.0
観点	知識・技能	76.6	78.3	79.5
	思考・判断・表現	57.1	58.6	59.5
	主体的に学習に取り組む態度	70.8	72.3	73.1



★指導の工夫と改善

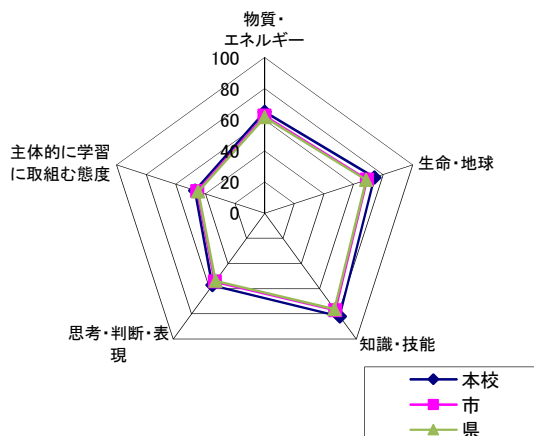
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○暗算のしかたを説明する問題では、正答率が60.0%で、県の51.4%を8.6ポイント上回った。 ●2けた×2けたの計算では、正答率が52.7%で県の66.8%を14.1ポイント下回った。	・2けた×1けたの計算や2けた×1けたの暗算のしかたを説明する問題の正答率が高いにも関わらず、2けた×2けたの計算の正答率が低い。位ごとに数を分けて計算することや、かけ算の筆算のしかたの理解を深め、正しく計算ができるようにする。
図形	○二等辺三角形を作図する問題では、正答率が90.0%で、県の正答率を1.2%ポイント上回った。 ●5個のボールがぴったち入っている箱の横の長さから、ボールの半径を求める問題では、正答率が61.8%で、県の正答率を2.6%下回った。	・円や球の半径や直径の関係についての学習では、図や模型を用いて説明することで、語句の意味を視覚的にも理解させるようにする。また、問題に取り組む際には、示された条件を図に書き込む、見えない部分を付け足す、図形を分解して描き出すなど、いろいろな解き方に触れさせるようにする。
測定	○道のりの意味を理解しているかの問題では、正答率が87.4%で県の正答率を1%上回った。 ●はかりの目もりを読み取って荷物の重さを求める問題では、正答率が83.6%で県の正答率を2.9%下回った。また、重さを推察して適切な単位を使って表す問題では、正答率が60.9%で県の正答率を6.7%下回った。	・道のりを求めるとき、用語の意味や正しい計算方法など、今後も丁寧に指導していく。 ・身近にあるものの重さを推察するなど、重さに対しての意識を高めるためにもはかりの使い方、活用のしかたを生活に取り入れ、学習にもつながるという意識づけを行う。
データの活用	●1めもりの大きさに着目して棒グラフのめもりが表す数値がわかるという問題では、正答率が86.4%と県の正答率を3.8%下回った。	・身の回りの数値をグラフ化する活動やグラフを作成する際のポイントなどを体験から意識づける。また、日常的に数値に慣れさせるよう考えたことを言葉や数と使った式や図、表にまとめることを学習活動にも意識して指導する。

宇都宮市立ゆいの杜小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	65.0	62.5	61.5
	生命・地球	74.2	69.2	68.6
観点	知識・技能	82.0	77.2	76.3
	思考・判断・表現	57.2	54.4	53.7
	主体的に学習に取り組む態度	47.0	45.5	44.9



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	<p>○物質・エネルギーの領域において、どの問題も県平均と同等か上回っている。</p> <p>○「風やゴムのはたらき」の「ゴムののばす長さ」と車の動く距離の関係を推測できる。」の問題において、県平均より8.8ポイント上回っている。</p> <p>●「物の重さ」の「種類の異なる物質を同じ重さにしたとき、体積がどうなるかを資料から考えることができる。」の問題では県平均と同等だが、正答率が25.5ポイントである。</p> <p>●「じしゃくのせいしつ」の問題すべての正答率が5割未満である。</p>	<p>・基礎的・基本的な知識・技能は身につけているが、活用問題になると、正答率が下がることから、活用場面を設けて、実験をしたり、活用問題を解いたりしていきたい。</p> <p>・資料や文章の読み取りが不十分であるので、引き続き指導が必要である。</p> <p>・基礎・基本の定着を高めるため、引き続き繰り返し指導をしていきたい。</p>
生命・地球	<p>●「太陽と地面のようす」の「日なたと日かげをの地面の温度のようすをもとに、日傘の下の方が涼しく感じる理由を推測できる。」という問題では正答率が26.4ポイントと低く、県平均より7.8ポイント下回っている。</p> <p>○どの問題も基礎・基本的な内容については、県平均同等または上回っている。</p> <p>○「身近なしぜんのかんさつ」と「こん虫の育ち方」、「こん虫のからだのつくり」の内容については、県平均同等または、上回っているため、自然についての興味関心の高いことや知識の定着が深まっていることが推測できる。</p> <p>○「身近なしぜんのかんさつ」の虫眼鏡の使い方についての問題は、県平均より19.1%も上回っている。</p>	<p>・身近な自然についての理解が高いため、これからも自然に親しむ機会を設けていきたい。</p> <p>・虫眼鏡の使い方についての理解が高い。そのため、用具を正しく操作できるよう、観察・実験の際は、主体的に取り組む機会が増えるよう支援していきたい。</p> <p>・活用問題や、生活場面と関連している問題、説明する問題の正答率が低いため、活用問題を解く時間の確保や、説明する時間の確保や、生活場面との関連を想起することができる機会を設けていきたい。</p>

宇都宮市立ゆいの杜小学校 第4学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で学校の宿題をしている」の肯定的割合が市・県より上回っており、他の質問項目においても家での学習は意欲的に行っている。そのため今後も継続的に行えるようにしたい。

○「学習に対して、自分から進んで取り組んでいる」の肯定的割合が市・県より上回っており、学習意欲が高い児童が多いことが伺える。

○「授業では、クラスの友達との間で話し合う活動をよく行っている」の肯定的割合が市・県より上回っており、継続的にを行い、考えを広げることができるようにしていきたい。

○「学校のきまりを守っている」の肯定的割合が9割を超えていることから、落ち着いて学校生活を送れていることがうかがえる。

○「毎日、朝食を食べている」及び「早ね、早起きを心がけている」の肯定的割合が8割以上となっており、基本的な生活習慣が身についていることが伺える。

●「授業では、自分の考えを発表する機会が与えられている」の肯定的割合が市・県より下回っていることから、意図的に指名したり、発問の仕方を工夫したりしていきたい。

●「授業で分からないことがあると、先生に聞くことができる」及び「クラスは発言しやすいふん囲気である」の肯定的割合が市・県より下回っていることから、聞きやすい雰囲気を作るとともに、間違いを恐れない姿勢をもつよう普段から喚起していきたい。

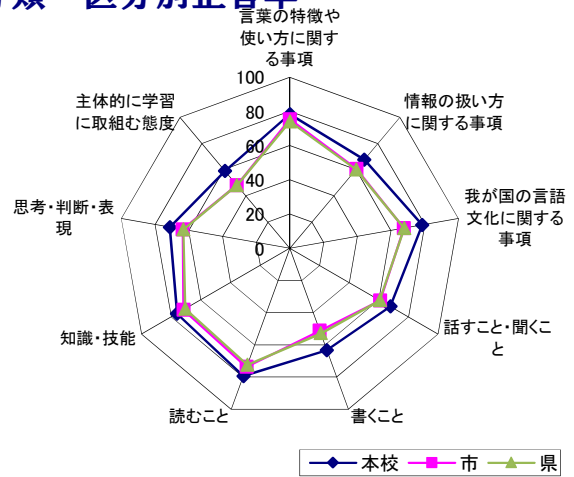
●「学校の授業時間以外に、ふだん(月～金曜日)、1日どれくらいの時間、読書を読みますか」の「10分より少ない」の回答が県と市よりも10ポイント程度上回っている。国語の授業で本の良さを伝えたり、並行読書を進めたり、図書室利用の機会を増やしたりして、本を読むきっかけを作っていきたい。

●「ふだん(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビやビデオ・DVDなどを見たり、聞いたりしますか(テレビゲームをのぞく。)」と「ふだん(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム(コンピュータゲーム、けい帯式のゲーム、けい帯電話やスマートフォンを使ったゲームもふくむ)を読みますか」の回答から情報メディアにかかわる時間が非常に多いことがわかる。正しい使い方を学年だよりなどで啓発していきたい。

宇都宮市立ゆいの杜小学校 第5学年【国語】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方に関する事項	78.4	75.4	74.1
	情報の扱い方に関する事項	67.7	60.5	60.2
	我が国の言語文化に関する事項	78.6	67.7	67.8
	話すこと・聞くこと	67.8	61.0	60.7
	書くこと	63.3	51.2	52.8
観点	読むこと	79.3	73.7	72.4
	知識・技能	76.1	71.7	70.6
	思考・判断・表現	71.2	63.5	63.2
	主体的に学習に取り組む態度	59.0	48.2	48.1



★指導の工夫と改善

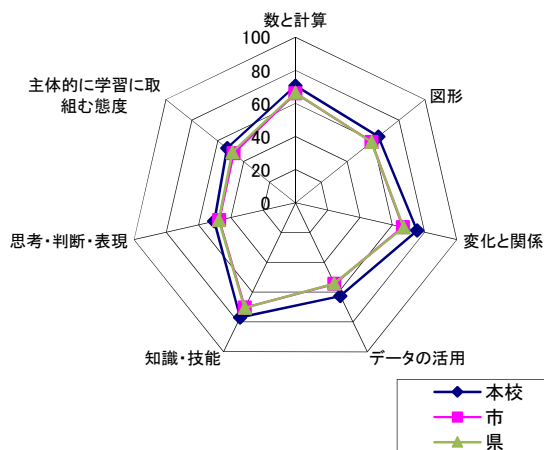
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	○漢字の読みに関する問題では、校内正答率が96ポイント以上と比較的に高い傾向にある。 ●連用修飾語についての理解に関する問題では、10.7ポイント県の正答率を下回っている。	・文章を構成している主語、述語や修飾語など文法に関する問題を授業で積極的に取り入れたり、作文を適宜の課題とすることで、多様な表現に触れさせたりする。
情報の扱い方に関する事項	○情報と情報との関係について理解し、要約をする問題では、7.2ポイント県の正答率を上回っている。 ●情報と情報との関係について理解し、理由や事例などを挙げていく問題では、10ポイント県の正答率を上回っているが、本校の正答率としては、45.9ポイントと低い傾向にある。	・段落ごとの要点をまとめたり、全体の構成を捉えたりする活動を基本にノートやワークシートに図や表を活用しながら可視化し、情報を整理する場面を積極的に取り入れる。
我が国の言語文化に関する事項	○ことわざの意味を理解して正しく使う問題では、県の正答率を10.8ポイント、市の正答率を10.9ポイント上回っている。	・ことわざや慣用句、故事成語について意味を理解するだけでなく、日常の出来事とつなげたり、引用して書いたりする経験を積み重ねていく。
話すこと・聞くこと	○話すこと・聞くことの設問では、どの問題でも県や市の正答率を上回っている。特に、話し手が伝えたいことの内容を捉える問題では、県の正答率を10.3ポイント、市の正答率を11ポイント上回っている。	・話の主題を捉える力をさらに伸ばすために、スピーチの要約をしたり、話し合い活動で意見をまとめたりする活動を取り入れる。
書くこと	○学級新聞を書く問題では、県の正答率を12ポイント、市の正答率を11ポイント上回っている。特に指定された長さで文章を書くことや構成を考えて事実と自分の考えを分けて書くことができている。	・今後も、段落の役割を意識したり、決められた構成に合わせて書いたりすることができるように、総合的な学習の時間の原稿作りなどの書く活動で活用させていきたい。
読むこと	○説明文の内容を読み取る設問では、県や市の正答率を7ポイント程度上回っている。 ●物語を読み取る設問では、登場人物の性格について具体的に想像する問題で、県の正答率を3ポイント上回るにとどまった。	・読書をして感じたことや考えたことを交流する時間を朝の読書タイムや国語の時間に設定し、文中から根拠をもって話し合う経験を重ねていく。

宇都宮市立ゆいの杜小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	70.7	66.1	66.4
	図形	64.1	58.9	58.8
	変化と関係	75.5	66.6	67.0
	データの活用	62.5	54.4	54.2
観点	知識・技能	76.9	70.4	70.6
	思考・判断・表現	50.3	47.2	47.5
	主体的に学習に取り組む態度	52.8	47.8	48.8



★指導の工夫と改善

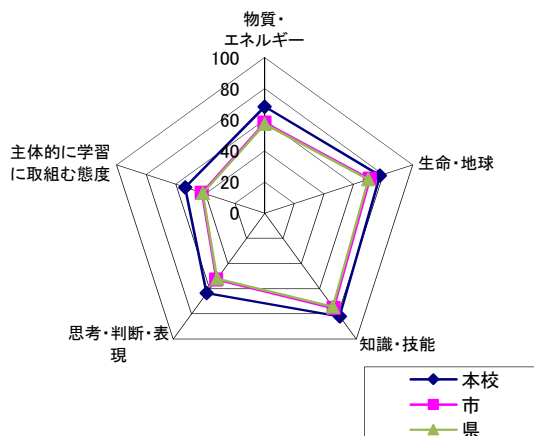
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>平均正答率は、県の平均を5.6ポイント上回った。</p> <p>○与えられた分数を数直線に示す問題は県の平均を7.1ポイント上回り、千の位までの概数の表し方を問う問題は県の平均を8.9ポイント上回っている。</p> <p>●小数の10倍した数を求める問題は、県の平均を6.3ポイント下回っている。また、整数、仮分数、帯分数、真分数の大小を比較する問題の正答率は約40%と課題が見られる。</p>	<p>・整数と小数に共通するしくみ、十進位取り記数法のしくみに着目して、数を柔軟に捉える見方を培っていく。</p> <p>・整数を分数に表すことができない児童が多かったと予想され、整数から分数に変換することや分数の意味、帯分数について適宜確認する。</p>
図形	<p>平均正答率は、県の平均を5.3ポイント上回った。</p> <p>○直方体のわる面に平行な辺を理解しているか問う問題は、県の平均を16.4ポイント上回っており、平行四辺形の作図の問題では、県の平均を11.1ポイント上回っている。</p> <p>●面積の単位の関係を説明する問題は、県の平均を上回っているものの、正答率が20%切っているため、理解できていない児童が多い。</p>	<p>・今後も、実物を使いながら、児童にイメージしやすいよう配慮しながら実践する。</p> <p>・普段の学校生活において算数的思考を促すために算数的活動を実践する。</p>
変化と関係	<p>平均正答率は県の平均を約8.5ポイント上回った。</p> <p>○簡単な場合についての割合に関する問題はいずれも、県の平均を上回っている。</p> <p>○伴って変わる2つの数量の関係を式に表すことができるか問う問題は、県の平均を13.6ポイント上回っている。</p>	<p>・伴って変わる2つの数量の関係を式に表す問題の正答率が64.3%と約4割の児童が正答できていないことから、身の回りの伴って変わる2つの数量の関係に着目し、一方の変化に対応してもう一方がどのように変化するかを調べる活動などをとおして、変化や対応の特徴を見出し、関数的な見方や考え方ができるようにしていく。</p>
データの活用	<p>平均正答率は県の平均を8.3ポイント上回った。</p> <p>○2つの折れ線グラフから、必要なことを読み取る問題は、県の平均を15.2ポイント上回っている。</p> <p>●図書室を、先週利用した人数と、今週利用した人数の違いを求めるのに必要な二次元表の欄を示し、その求め方を説明する問題は県や市の平均を上回っているが、正答率が28.6%と3割を切っていた。</p>	<p>・今後も、表やグラフのデータを正しく読み、分析的に扱う授業を行い、自分の考えや意見を記述する学習を増やす。</p> <p>・普段の学習に文章問題を解く機会を増やし、読解力の向上を図る。</p>

宇都宮市立ゆいの杜小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	68.4	58.1	57.2
	生命・地球	77.9	71.1	70.0
観点	知識・技能	82.0	75.5	74.4
	思考・判断・表現	63.5	52.7	51.9
	主体的に学習に取り組む態度	53.7	42.4	41.7



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	<p>○すべての設問で県の平均を上回っている。</p> <p>○物のあたため方設問では、県の平均正答率を19.7ポイント上回った。空気の動き方について実験結果をもとに説明することができた。</p> <p>●県の平均は上回っているものの、水のすがたの設問の正答率が低かった。湯気が液体であることが十分定着していない。</p>	<p>・実験結果をもとに説明をする力に長けている。今後とも、実験結果の考察を記述したり、発表したりする機会を設けていきたい。また、理科の用語を正しく使って、説明する活動を工夫していきたい。</p> <p>・液体・気体の定義について、しっかり確認するようにしたい。</p>
生命・地球	<p>○すべての設問で県の平均を上回っている。</p> <p>○天気のように気温の設問では、県の平均正答率を18.3ポイント上回った。気温のはかり方について十分理解している。</p> <p>○月と星の設問では、県の平均正答率を12.1ポイント上回った。半月の1日の動きを理解し、見える時刻を説明することができた。</p> <p>○雨水のゆくえと地面のようすの設問では、県の平均正答率を14.1ポイント上回った。土の粒の大きさと水のしみこみやすさの関係を記述することができた。</p>	<p>・上記と同じように実験結果をもとに考察を書く活動を今後とも続けたい。</p> <p>・実際に体験をさせる活動を積み重ねたり、一人ひとりが見通しをもって実験にかかわれるように個別の実験の機会を増やしたりするなど工夫していきたい。</p>

宇都宮市立ゆいの杜小学校 第5学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で、学校の宿題をしている。」の肯定割合は100%であり、県や市の平均と比べて大きく上回っている。家庭学習の習慣は、よく身につけているといえる。

○「学校のきまりを守っている。」の肯定割合は98.9%であり、市や県の平均を上回っている。全体的に規範意識が高く、落ち着いた家庭や学校生活を送っていると思われる。

○「毎日、朝食を食べている」という質問では、98%の児童が肯定回答をしている。また、「ふだん1日にどれくらいの時間、すいみんをとることが多いですか」という質問では、8時間以上すいみんをとっている児童の割合が、91.8%と市と県の平均を大きく上回っている。規則正しい生活の習慣がよく身に付いているといえる。

○「誰に対しても思いやりの心をもって接している」という質問では、肯定回答が、93.9%と市と県の平均を上回っている。相手の立場を考えて行動できるよう、今後も引き続き指導していきたい。

●「家で、学校の授業の復習をしている。」の肯定割合58.1%で県や市の平均と比べて下回っている。また、「学習に対して、自分から進んで取り組んでいる。」の肯定割合は、69.4%で県や市の平均と比べて下回っている。家で宿題をやることは、習慣化されているが、宿題以外の復習や課題を見つけて取り組むことが苦手と思われるので、学習の手引きを示すことによって、自主的に学習に取り組めるよう、支援していきたい。

●「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している。」の肯定割合は69.4%であり、県や市の平均と比べて6ポイント下回っている。また、「授業では、クラスの友達との間で話し合う活動をよく行っている」の肯定割合は76.6%であり、県や市の平均と比べて6ポイント下回っている。互いに意見を交流することの面白さを味わうことで、話し合い活動への意欲が高まるよう、国語の時間を中心に、指導の仕方を工夫していきたい。

●「普段の1日当たりどれくらいの時間、ゲームなどをしますか」の質問では、3時間以上ゲームをする児童の割合が、33.7%と市と県の平均を上回っている。また、「学校の授業時間以外に、ふだん(月～金)1日当たりどれくらいの時間、読書を読みますか」という質問では、「まったくしない」の割合が、市と県の平均を上回った。朝の読書の時間や国語の時間に本を紹介するなどして、読書に興味をもてるようにし、少しでも家庭で読書する時間を確保したい。また、ゲームの時間においては、長時間にならないよう、家庭と連携することで、適度な使用をお願いしていきたい。

宇都宮市立ゆいの杜小学校 (第4・5学年共通) 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
授業において、めあて、まとめ、振り返りを確実に行うための工夫	<ul style="list-style-type: none"> 「めあて」「まとめ」「ふりかえり」などのカードを各教室の黒板に準備し、どの授業でも活用できるようにしている。 「板書見せ合いの日」を設定し、互いに見せ合い、参考にする機会を設けている。 	<ul style="list-style-type: none"> 「授業の中で、目標がしめされている」の設問で、肯定的回答した児童が4年生、5年生共に90%を超え、どちらの学年でも市や県の平均を上回った。 「授業の最後に、学習したことを振り返る活動をよく行っている」の設問で、肯定的回答した児童が4年生は76.4%、5年生は79.6%でどちらの学年でも市や県の平均を上回った。
家庭学習の習慣化に向けた指導の工夫	<ul style="list-style-type: none"> 学年内で宿題の量や家庭学習の仕方をそろえる。自主学習の内容や方法を示し、よい実践のものをクラスに紹介する。 互いの自主学習ノートを見せ合う機会を設けることで、今後の学習の参考になるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 「家で学校の宿題をしている」「テストで間違えた問題について勉強している」の設問で、肯定的回答した児童が、どちらの学年でも市や県の平均を上回った。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
「学校の授業時間以外に、ふだん(月～金)1日当たりどれくらいの時間、読書を読みますか」という質問で、「まったくしない」の割合が、高かった。	読書タイムや読み聞かせ、読書週間での取り組み	毎週金曜日の読書タイム、月1回の読み聞かせで読書への関心を高める。また、親子で本を読む機会を設け、家庭への啓発に努める。